

都市と農村の交流における 農村観光の役割

— 広西チワン族自治区南寧市の事例を中心に —

馬 嫻
大 島 一 二

1. はじめに

現在の中国における都市と農村との連携は新たな局面を迎えている。高度経済成長期以降、都市のライフスタイルは急速に変化し、これまでの「物質的な豊かさ」を追求する考え方から、「心の豊かさ」や「ゆとりのある生活」を重視する傾向が強まっている。こうしたなかで、現在の中国においては、都市と農村の関係に関して、依然としていくつかの社会・経済問題が大きな課題となっている。それは、以下のような問題に整理できよう。

(1) 2000年代初めに顕在化した、食の安全・安心問題に起因する、農業・食品企業の在り方に対する消費者の不信問題であり、これは言い換えると都市住民の「食」への関心の深化であるともいえる。

(2) 近年の産業発展と人口の過度な集中による、過重な肉体や精神への負荷（ストレス）の深化の問題があげられる。とくに、近年の都市の拡大により、遠距離通勤が余儀なくされ、また新型コロナウイルスの感染拡大による景気後退、若年層の失業率の高まりなども拍車をかけている。こうした経済・社会的背景によって、肉体的、精神的なストレスがこれまで以上に蓄積している。

(3) さらに、経済の急速な発展により、子供たちが自然や農業と触れ合う

キーワード：農村観光，都市と農村の交流，美麗農業園，広西チワン族自治区

機会が減少しており、子供たちの健全な発育に不安を抱く両親が増加している。

こうした状況の下で、都市住民には、安全かつ生産過程が明確な農産物・食品の確保、都市生活のストレスからの解放、子供たちの健全な発育などを求め、農村の中での生活体験、農業体験、伝統文化、イベントとの出会いなどのニーズが広がってきていると考えられる。

この一方、中国の農村地域は、大量の若年層労働力の地域外への流失に伴い、過疎化が進行し農業の担い手不足の問題が顕在化している。さらに安価な海外からの輸入品の増加に伴って農産物価格は低迷し、山林の荒廃や耕作放棄地が増加し、農村地域の衰退が加速している。その結果、農業、農地が多面的な機能を発揮する機会は徐々に減少していると言っても過言ではないであろう。

このような状況の下で、前述した都市住民と農村住民とのニーズを結合させ、都市と農村住民それぞれがお互いの地域の魅力を再確認し、理解を深めるための一つの方途として、農村観光が注目を集めている。2016年以後、中央政府や地方政府は、農村観光に対して多くの支援政策を導入し、大規模な資本が農村に流入してきた。2017年2月中央一号文件では、「農民專業合作社を媒介として、農民が全面的に参加し、利益を得ることが可能で、また循環型農業等の高い科学技術水準の農業、体験農業などを結合した農業観光の基地建設」が提案されている。さらに2017年5月には、中国財政部は「田園綜合体建設試験地工作に関する通知」を提示し、「田園綜合体¹⁾」への取り組みを活かした新たな都市と農村交流の可能性が盛んに模索されている。

そこで、本稿では、広西チワン族自治区南寧市における「美麗南方田園綜合体」（以下現地の呼称に従って「美麗農業園」とする）の事例を取り上げ、これまで十分に明らかにされてこなかった農村観光の社会・経済機能について検討する。具体的には、南寧市の現地における農村観光の現状と課題に関

1) 「田園綜合体」については、以下の2(1)を参照いただきたい。

する調査結果に基づいて、農村と都市観光の社会・経済的役割、交流の形式、地域への波及結果等を明らかにするとともに、現在の中国の多くの地域で取り組まれている農村観光の展開について研究する上での一助としたい。

2. 「田園総合体」に関する先行研究

「田園総合体」は、中国の工業化と都市化の発展に伴って、都市と農村の融合の推進のために、農村の供給側の構造にしたがって構想されたものである。「田園総合体」は農業主導の農民專業合作社を主要な主体として、農民の利益を前提とし（張燦強, 2018）、産業、観光、不動産、文化、療養関連産業が統合される、多機能の経済総合体である（張玉成, 2018）。

(1) 「田園総合体」の概念

「田園総合体」という概念は、2017年の中央一号文件で初めて提出されたが、多くの専門分野の研究者は、「田園総合体」について、異なる視点からこの概念を解釈している。例えば、「農業総合体」の概念は、2012年に陳健平院士によって初めて提出されたものである。「現代都市総合体」の考え方に基づいて、「都市総合体」の概念を取り入れ、「現代農業総合体」の概念を提案した。「農業総合体」は、農業が主導的役割を果たし、科学技術と文化創造を両翼とし、農産物の生産、加工、物流、農業科学の普及、農学教育、レジャー、文化創造などを融合した、多機能で複合型の産業総合体をさす。

こののち、「田園総合体」は、「農業総合体」の基礎に基づいて提起され、両者の概念は基本的に同じ考え方から構成されている。相違点としては、「田園総合体」は空間開発と地域活性化の視点からより合理的に農村の資源を活用するところにある。「田園総合体」は農業生態環境保護、農村文化、都市と農村の交流に重点をおいている。言い換えれば、生態環境保護を優先し、持続可能な発展を堅持する原則である。現在の農村の多面的機能を發揮するために、自然環境の保全、文化、伝統は「田園総合体」を發展させる重

要な要因である。中国の農村観光の発展から見ると、「田園総合体」は決して新しい概念ではなく（白春明，2018），中国の歴史と伝統に立脚したものであるという。

(2)「田園総合体」の特徴

「田園総合体」の基本主体は、農業を基礎とし、農民の自主的な発展意識を強化し、農民の持続的な収入の増加を目的として、さまざまな経済主体から支えられている。例えば、私企業、農民專業合作社、流通業者、観光業者、政府などから構成されている。それぞれの役割を十分に果たすことができるように、各主体の優れた点を發揮し、多元的な主体が、互いに情報提供、供給保障などを行うことによって、「田園総合体」は持続的に発展を遂げることができるのである。

そして、「田園総合体」は、現地住民、新移住者、観光客の共通の活動スペースである。つまり、現地住民の生産と生活空間を完全に保障し、多くの経営主体の連携によって、現地住民の収入増加を目的としている。また、都市住民のニーズに基づいて、魅力的な農村をつくる必要がある。同時に、伝統文化の観光を切り口として、交流スペースの整備、子供たちの農山漁村交流プロジェクトの推進、文化の伝承などについて多くの形態を用意することが必要である。

経済の急速な発展に伴って、農村観光もまた新たな発展の様相を呈している。前述した都市住民のニーズの変化によって、農村観光も新たな動向が発生している。図1に示したように、「田園総合体」の基本的な考え方は、住みよい農村空間を形成して、安定的に生活できる農村づくりを示し、後継者や若者が定住することである。同時に、「田園総合体」内の農業、農産加工業、農産物の販売、観光業などの地域資源を最大限に活用し、都市住民の余暇空間としても価値のある新しい農村サービス産業が展開され、地域活性化および生産と整備の一体化を示すものである（白春明，2018）。

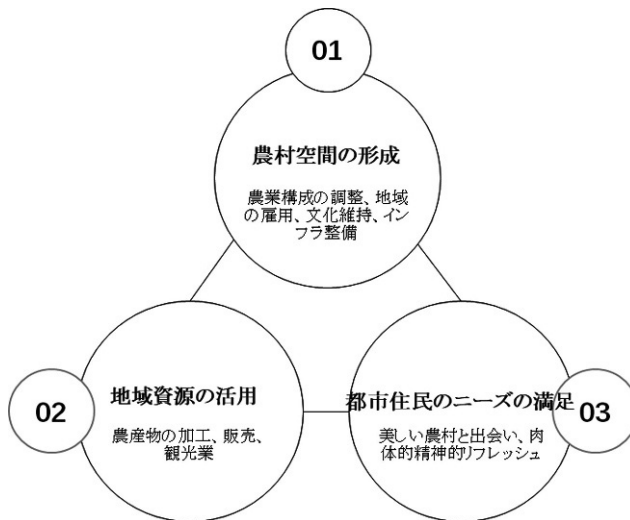


図1 「田園総合体」の推進コンセプト

資料：白春明・尹衍雨・柴多梅・王桢・张天柱(2018)「我国田園総合体発展概述」に基づいて筆者作成。

田園総合体の建設プロセスでは、生産、生活、生態の一体化が基本となる。機能に応じて、農業生産区、産業加工区、文化観光区、生活住宅区、総合サービス区等に分けられる。

3. 農村観光による都市・農村交流の取り組み

(1) 調査事例の概要

南寧市は広西チワン族自治区の中心都市であり、同自治区の中南部に位置している。近年緑化が進んでいることから「緑城」とも呼ばれる。ベトナム国境から160キロメートルの地点にあり、地理的な優位性を活かし、ASEANと中国を結ぶ港湾や高速道路などのインフラ整備が進展していることから、中国と東南アジアとの貿易上重要な都市である。

南寧市は年間通じて降水量が多く、冬は乾燥し、夏は湿度が高い。日照時間が長く一年中比較的快適に活動できる観光地である。地域全体の大部分が

石灰岩地盤から構成されており、独特なカルスト地形が広く形成されている。また多くの少数民族から構成され、多民族が共存しているので、地域特有の文化・料理等が豊富である。

また、南寧市は悠久の歴史を有し、詩歌や絵画の舞台となった南国の都市で、緑化が進展している。このように南寧市は地理上の優位性を持ち、さらに自然資源、文化資源、農業資源が豊富なことから、観光面において他の地域より比較優位性を持っていると考えられる。

こうした豊富な観光資源の結果、南寧市は中国において有名な観光都市として著名であり、82の国家級3A級旅行景勝地²⁾があり、このほかに広西チワン族自治区独自の星級観光区が65あり、広西星級農家楽（一種の農家民宿）が91ある³⁾。また、南寧市は2021年12月31日に指定された広西チワン族自治区全域における観光モデル都市でもあり、中央政府、地方政府から農業観光のモデルとしても支持されている。

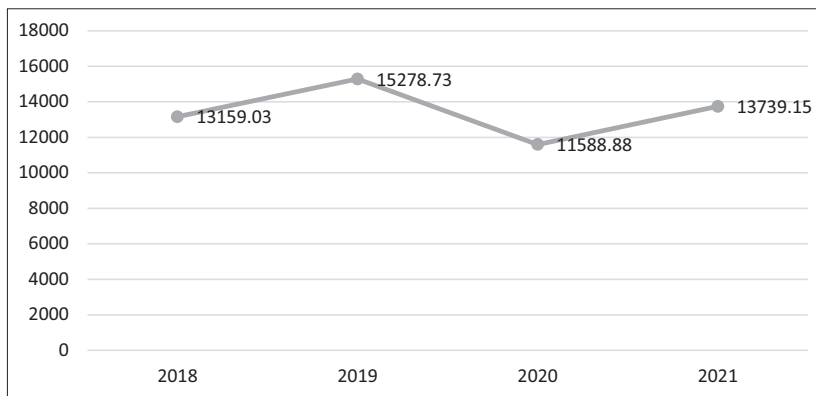
南寧市の観光客訪問数、営業収入をみると、2018年以降は以下のような推移となっている。2018年の年間訪問客数1億3159万人（前年比19.0%増）、営業収入1388億元（前年比23.1%増）、内、国内観光客1億3094万人（前年比19.0%増）、海外観光客65万人（前年比9.0%増）に達した。2019年には、1億5279万人（前年比16.1%増）、1725億元（前年比24.3%増）とさらに増加したが、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大によって、1億1589万人（前年比11.4%減）、1216億元（前年比16.1%減）、2021年は1億3739万人、1529億元とやや不振である。

このように、とくに、2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、観光に大きな影響を与え、甚大な訪問客減少をもたらしている。これは海外からの観光客数に顕著であり、2020年には、4.28万人（前年比93.8%減）と大幅減少となり、これに伴って海外観光営業収入も前年比96.4%減

2) 観光地の等級は中華人民共和国国家観光局が制定している。これは単に観光地の重要性だけを示すものではなく、安全性、清潔面、交通の利便性等を総合的に判断して、観光地の質を高める目的ももっている。5Aは最高のものである。

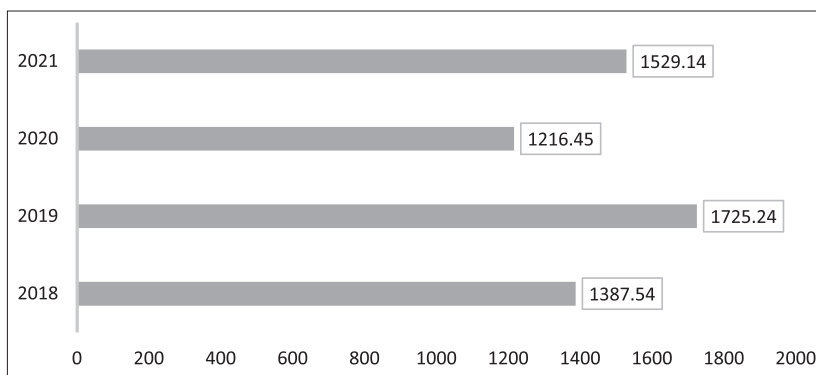
3) このデータは南寧市政府が公表したものである。

図2 南寧市観光業の観光客数(万人)



資料: 広西チワン自治区統計局(2022)から作成。

図3 南寧市観光業の営業収入(億元)



資料: 広西チワン自治区統計局(2022)から作成。

となった。こうしたことから、2022年以降、新型コロナウイルスの感染拡大が終息した後に、どのような新たな展開をとるべきか、現地では模索が開始されている。

本研究の対象事例である「美麗農業園」は、南寧市中心部から15 kmに位置し、「田園綜合体」の行政区の中には10の行政村が存在し、約10万人が生活している。亜熱帯に属し、気温、水資源に恵まれ、年間平均気温は

21.6℃，年間平均降水量は1304.2mmである。亜熱帯に属するものの，山間部に位置するため，比較的冷涼な気候で，避暑地としても注目されている。

「美麗農業園」は南寧市の西郷塘に位置する。西郷塘は農業生産が盛んで，ティラピアの養殖モデル区に指定され，広西チワン自治区の最大のバナナの生産基地でもある。2016年から建設が開始され，各地方政府の財政投入は8億元に達するなど，多くの社会資本が投入されてきた。以前は水稻中心の農業生産構造であったが，現在では農民專業合作社を中心とした現代特色農業モデル区が22カ所建設されるなど，作目も多様化している。

南寧市政府が公表した資料によると，現在，国家級特色農業モデル区が3，農家楽（一種の農家民宿）が30，特色村落観光区が3，特色産業園区と農業体験区が2，生態農業観光，娯楽，飲食，療養施設，農業先進科学技術普及施設などの機能を一体化した5つ星級の農村観光地である。

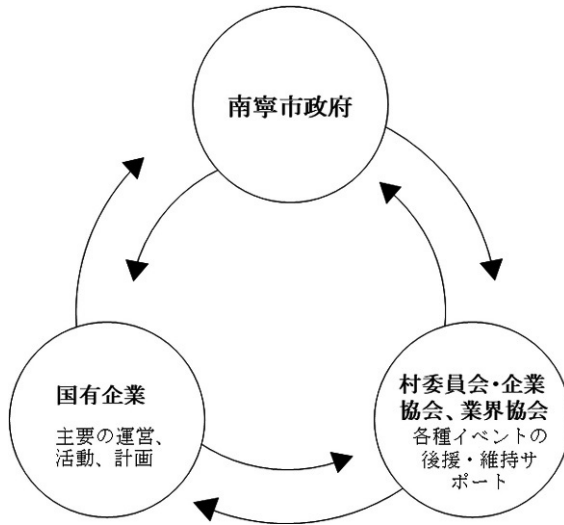
「美麗農業園」は，「一軸二翼三帯八区」の發展計画が立案され，建設が進められてきた。つまり，域内の県道を農業園の交通と發展の主軸とし，南翼には農業見学，農業体験，農業發展に重点を置き，北翼には最新農業技術，エコツーリズムなどに重点を置き，農業体験帯，田園風の農業体験帯，自然風景体験帯に分けられ，創意農業体験区，スマート農業展示区，特色養殖区，高効率農業区，加工物流集散区，循環農業モデル区，伝統村落保護区，健康ウエルネス区の八区が建設されている。

(2) 「美麗農業園」の経営管理体制

「美麗農業園」においては，特徴ある経営管理体制がとられている。図4に示したように，政府の主導的なコントロール下で，農業園内の各村政府も国有企業の業務に協力し，管理運営体制を強化している。また，国有企業は「美麗農業園」内のインフラ整備建設，日常管理などを担当し，主に経済，経営面を担っている，また，各村の村民委員会，企業協会，業界協会は運営，計画，宣伝，開発などを行っている。つまり，市場志向原則とは，政府主導的なコントロール下で，高効率の国有企業（盛都企業），運営管理企業

等を組み合わせ、政府主導、企業が主体として、市場志向、開発統合、効率優先原則を堅持し、地域圏内の資源を結合し、現地で生産、経済、生態の均衡と経済の持続発展を整合させ、特徴ある高品質の「田園総合体」の建設に努めている。

図4 田園総合体の経営管理体制



資料:筆者作成。

この図のように、田園総合体の行政管理は政府であり、各種イベントの後援、運営、維持のサポートを担当している。機能的にみると、政府は日常管理、政策の制定と実施、監督を担当し、投資企業は具体的な経済運営を担当していることがわかる。

(3) 「美麗農業園」の観光プログラム開発

前述したように、現在の中国の都市社会においては、人口の過度集中により、生活環境の悪化、公害、住宅問題の深刻化、食品安全問題などの様々な問題を抱えることとなり、都市住民は大きなストレスを抱えている。この結

果、農村に対して、「自然とのふれあい」、「食の安全、安定供給」、「心身ともにリラックス」、「伝統的な地域文化との出会い」などの多様な要求が生まれてくる。この都市における市場ニーズに基づいて、「美麗農業園」では観光資源の開発を通じて、農業構造の調整を実行している。

つまり、第一次産業に傾斜した従来までの農村の産業構造を改善し、第二次産業、第三次産業の振興により、農村のバランスのとれた経済発展を推進するのである。具体的には、単純な農作物の生産を中心とした構造を改革し、農村の多様な産業の発展、農村の伝統文化の維持発展、環境の改善、都市と農村の交流などを推進している。こうした、農業を基本とし、その基礎の上で、第二次産業、第三次産業を発展させることにより、地域経済の活性化に大きく貢献するだけでなく、一方で、都市と農村の新たな関係構築にも大きな発展可能性が見いだされるのである。

表1 開発された観光商品サービス

名称	経営主体	経営動機	利用者	事業内容
伝統村景観施設	村民委員会	政策の応用	都市住民、地域外の団体顧客	農村の風土、民俗文化などの観光、伝統工芸体験
最新農業技術見学区	国有企業	農村観光ブームへの対応	都市住民、地域外の団体顧客	農業技術、知識学習、農村啓蒙活動
養生会館宿泊区	私企業 現地農民	農村観光ブームへの対応	周辺企業の職員 政府職員	宿泊の提供、農家料理の提供、テレワークサイトとしての滞在、社員旅行
農耕祭事体験	農村合作社、家庭農場	自宅空き室の有効利用	都市住民、中小学生、地域外の団体顧客	子供の教育旅行

資料：調査結果から筆者作成。

表1には、「美麗農業園」において、さまざまな経営主体が、観光商品、サービスを多次元で開発し、都市住民等に提供していることが示されている。この表からは各観光開発主体が独自の観光業態を開発していることがわかる。このように、「美麗農業園」では都市生活者等を対象に、健康と心身のリラックス、人間教育、食文化、地域の文化などを提供しているのである。

4. 都市と農村交流の取り組みとその実績

(1) 都市・農村交流の深化

前述したように、2020年以降の新型コロナウイルスの感染拡大は、調査地域の社会、経済、農村観光地に大きな影響をもたらしている。特に中国政府は感染の再拡大を受けて、ロックダウン政策（都市封鎖）と、それに伴う不要不急の外出の制限を実施した。この影響は、観光産業に対して経済的に大きな打撃を与えた一方で、「新しい観光方式」によるテレワークの推進に伴い、農村観光地における「ワーケーション」⁴⁾の需要喚起をもたらした。

その後、中国各地で新型コロナウイルス対策によるロックダウン政策が一部緩和され、近距離の外出が許可されている。こうしたことから、都市近郊の農村観光は多くの地域で復活し、都市住民の関心が高くなり、とくに、日帰り旅行が可能な県域内における農村観光が好評を博している。こうした短期の農村観光の復活は、多くの都市住民にとって、都市の密な居住環境から離れ、より広く、より心身的にリラックスできる環境に囲まれ、感染リスクも低い農村で仕事を進め、地元の豊かな伝統文化や食文化を再発見する機会となっている。

「美麗農業園」には、「ワーケーション」を実現する施設として「忠良山庄」という宿泊施設が設置されている。「忠良山庄」は、主に都市住民を対象に「療養、飲食、宿泊、仕事」等の諸機能を提供している⁵⁾。

「忠良山庄」には、一般の宿泊施設（200人程度収容）のほかに、温浴施設（薬草風呂）、農園料理（農園で収穫された農産物の活用）の提供施設、喫茶スペース等が設置され、主に都市からの観光客の利用が促進されている。

正社員は7人、臨時雇用約20人が雇用されている。2021年の年間利用者は4~5万人程度であり、将来は15万人程度を目標としている。

4) ワーケーションとは「仕事」と休暇を組み合わせた欧米発の用語であり、テレワークの活用により、リゾート地や地方などの普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得を行うもの。

5) Wi-Fi、キッチン、生活用品等も完備している。

この「忠良山庄」の意義として、以下の3点があげられる。

- ① まず、農村地域の経済面での活性化に加えて、新たな雇用機会を創出し、農民の収入増をもたらしたことである。
- ② つぎに、都市住民にとって、農村の有する多面的価値を再認識する機会となることから、前述したような都市住民ニーズを満足させることが可能となる。
- ③ さいごに、来訪者の意識の変化は、療養体験などから、農村生活に対する感動、共感、移住の可能性などをもたらす。こうしたことが農村地域の再構築、都市と農村の交流にも有効であると考えられる。

(2) 「美麗農業園」の課題

前述のように、「美麗農業園」においては、観光開発が急速に進められているが、その一方、利用客のニーズに応じた、さまざまな課題を解決していく必要がある。

本来、農村地域でワーケーションに求める付加価値は、都市住民が農村において自然景観、地元での飲食、歴史遺産の散策などを通じて様々な効用を得ることであるが、しかし、多くの観光施設の建設が無秩序に進められることによって、現状の自然、歴史景観の維持が難しくなる場合も発生している。

また、都市住民がワーケーションを行う際に、具体的にそれが実現できる施設は不足しており、現状では長期の滞在生活には不便が多い。この点については、前述の「忠良山庄」の顧客アンケートの結果にも現れている。つまり、ワーケーションを行う際に求められる施設・設備、近隣のスーパーマーケット等の商業施設の充実は必須であるが、現状ではそうした要求を満たす状態ではないことなどが示されている。特に、高速Wi-Fi設備、コピー機等の事務用機器、テレビ会議室などのオフィス施設が絶対的に不足している。その点において、現状ではワーケーションの普及には大きな制約が存在するといえよう。そこで、「美麗農業園」の今後の取り組みとして、ワーケー

ションの必要条件であるビジネスインフラ、近隣の商業施設、土産店、病院等を整備することが今後の課題として残されると考えられる。また、アンケートでは、こうした問題点とは別に、現状の施設について評価が高い点として、「美しい自然が豊富」、「地元の料理が豊富」、「多様な地域文化」等の項目で、訪問客から比較的高い評価を得られていることも明らかになっている。こうした現在の長所を生かし、どのように課題を克服していくかが、今後重要となろう。

(3) 「修学教育観光」にみる都市農村交流

中国においては、近年、食と農への認識が深まることによって、農村振興の一助となる動向が生まれている。すなわち、「体験教育観光」、「修学教育観光」といった考え方である。

2014年、中国政府が発表した「観光業改革の促進に関する若干の意見」においては、農村における「修学教育観光」について、これを推進する新しい政策が打ち出された。さらに、2020年には、各地の教育局が発表した文件においては、今後の農村における「修学教育観光」の展開方向、基地建設が主要なテーマとして検討されている。

このように、「修学教育観光」の促進を主内容とする方針が各級政府から次々に打ち出され、現在、農村における「修学教育観光」の推進が中国政府全体の方針として大きく取り上げられている。

この「修学教育観光」においては、農村における「修学教育観光」事業を通じて、子供たちにとって、農家の暮らしと農業が俯瞰できる環境を得ることによって、都市では得難い体験の場が形成される。こうした観光事業は、教育効果が高いだけでなく、自然に触れる体験を通じて、学習への積極性を獲得する子供が増えている。また、農村での宿泊活動を通じて人間関係や公衆道徳などについての基礎知識を体得する貴重な機会となろう。

一方、受け入れる農村地域においては、副業収入の確保などの経済効果に留まらず、農村地域の少子高齢化による担い手の不足、地域の活性化などに

も一定の社会効果があると考えられる。

「美麗農業園」における「修学教育観光」の端緒は、1997年に開催された「美麗南方農耕文化節」にまで遡ることができる。その文化節の基本テーマは、「園内の豊かな自然や伝統文化資源、農村漁業などの地域資源を、そこで生活を送ることにより、農業・農民たちとのふれあいの中で、体験教育するもの」と規定され、新しい農村観光と体験教育観光を通じた都市・農村の交流の場として注目された。その際には、豊かな自然、風景、文化などを活かした地域資源の再発見および新たな魅力の発見が開催目的とされたのである。

こうした「修学教育観光」を通じた都市・農村交流として、重要な点は、田舎暮らし体験が可能となるという点にあり、体験教育型観光の先駆けとして、2020年には、年間来場者が450万人⁶⁾を記録した。

「美麗農業園」の修学体験観光は日帰りでの受け入れを中心に据えているが、一方で、体験宿泊も重視している。表2に示したように、提供する多次元のサービスを開発し、修学教育観光学生に強い影響を与える内容となっている。

表2 「美麗農業園」の修学観光

メニュー	対象	内容
農業体験	中高生、小学生	植林、農産物の収穫等、春の耕作、夏の除草、秋の収穫、冬の蓄えの体験
料理体験	中高生、小学生	ギョウザ作り、ジャムづくり等
エコツアー	小学生、一般	周辺自然資源の再発見と保全、自然環境の再発見、洞穴体験
伝統工芸などのものづくり体験	中高生、小学生	陶磁器、木工、染織

資料：調査結果から筆者作成。

ここまで述べてきたように、「美麗農業園」では体験観光を進めて、これに地元の農民が積極的に参画することによって、より多くの小、中学校の学生が訪れる新たな農村観光地として成長している。

6) このデータは「美麗農業園」が公表したものである。

その一方、体験観光の利用者のアンケートからは、いくつかの課題が浮き彫りになった。たとえば、食事、民泊などの安全管理が不十分であること、修学体験内容の創意工夫が不足していることなどである。こうした問題をどのように改善していくのが課題である。

5. まとめにかえて

本論文では、田園総合体に関する概念や特徴、管理などを整理したうえで、広西チワン族自治区南寧市における「美麗農業園」の田園総合体の事例を取り上げ、「美麗農業園」の概要、民泊、修学教育観光に対する取り組みを概観し、現在中国で進められている農村観光を通じた都市と農村との交流の実態、および直面している課題を検討し、農村観光の社会役割、交流形式、地域への波及効果等を検討してきた。

ここまでみてきたように、「美麗農業園」は各級政府の主導の下で、企業、農民專業合作社等の多主体から形成されている。そして、農村観光を通じて、農村側にとって、三農問題の解決、農業構造の改革、農民の収入増加、自然環境の保護、伝統文化の維持など、一定の成果が現れている。一方、都市住民にとっては、新鮮で安全な農産物・食品の供給に加え、肉体的精神的なりフレッシュも可能となり、伝統的な地域文化の再発見などの新たな効用も生まれている。

しかし、農村観光を通じた都市と農村交流の発展における今後の課題として、まず、農村観光による地域活性化のために、施設設備に多額の費用が必要とされることがあげられる。次に、都市住民の多様なニーズに対応するために、食事、民泊などの安全管理の充実、内容の創意工夫の不足など、いくつかの課題が残されていることも明らかになっている。ここまでみてきたように、「美麗農業園」の今後の持続的な発展は容易な作業ではなく、いくつかの克服しなければならない困難が存在していることが明らかになったといえよう。

こうしたことから、さらに、観光客の視点からの農村観光の認識、評価を

把握し、観光地を繰り返し訪れる観光客との長期的な関係性の構築は必要があると考えられる。今後は本研究の知見を活かしながら、観光地の魅力向上、観光客の集客、新顧客の開拓などについてさらに研究が必要となると考える。

参考文献

<日本語文献>

- 中尾誠二 (2012) 「都市生活者が抱く農山漁村交流のニーズに関する一考察—ニッポン全国“田舎”フェア来場者アンケート結果を中心に—」『成美大学紀要』第3巻第1号, pp 1-13。
- 小山環・十代田朗・津々見崇 (2017) 「都市と農村の交流に関する言説の変遷—雑誌「農業と経済」のケーススタディ」『都市計画論文集』第52巻第2号, pp 198-208。
- 田中敦・石山恒貴 (2020) 「日本型ワーケーションの効果と課題」『日本国際観光学会論文集』pp 113-122。
- 大西敏夫 (2011) 「都市・農村交流政策の展開と課題」『都市と農村：交流から協働へ』pp 58-79, 日本経済評論社。
- 岸上光克 (2011) 「農家レストランにおける都市・農村交流」『都市と農村：交流から協働へ』pp 169-177, 日本経済評論社。
- 藤田武弘 (2011) 「体験教育旅行を通じた都市・農村交流」『都市と農村：交流から協働へ』pp 180-195, 日本経済評論社。
- 原直行 (2022) 「ワーケーションによる地域ビジネス創出に関する実証的研究 序説」『香川大学経済論叢』第95巻第2号, pp 45-110。

<中国語文献>

- 盧貴敏 (2017) 「田園綜合体試点：理念、模式与推進思路」『農業供給側改革』, pp 8-9。
- 白春明・尹衍雨・柴多梅 王楠, 張天柱 (2018) 「我国田園綜合体發展概述」『業界觀察』, pp 1-6。
- 張燦強 (2017) 「根植与郷土惠益于農民—刍议田園綜合体建設」『農村工作通知』第9期, pp 48-49。
- 張玉成 (2018) 「關於田園綜合体的深度解讀」『中国房地產』第3期, pp 56-61。

広西壮族自治区統計局（2022）『広西統計年鑑 2021』中国統計出版社。

（ま・まん/経済学研究科博士後期課程）

（おおしま・かずつぐ/経済学部教授/2022年11月12日受理）

The Role of Rural Tourism in Urban-Rural Interaction
— A Case Study of Nanning City,
Guangxi Zhuang Autonomous Region —

MA Man
OSHIMA Kazutsugu

This study focuses on rural tourism as one way to combine the needs of urban and rural residents, and to help urban and rural residents reaffirm and deepen their understanding of each other's local attractions.

Since 2016, the central and local governments have introduced a number of support policies for rural tourism, and large amounts of capital have flowed into rural areas; the February 2017 Central No.1 letter, as well as the May 2017 notification from China's Ministry of Finance, have promoted initiatives for urban-rural exchange mediated by the "Rural Composite Body".

This paper, therefore, takes up the case of the Meilinongyeyuan Rural Composite in Nanning, Guangxi, to examine the social and economic functions of rural tourism, which have not been fully clarified until now. Specifically, based on the results of a survey on the current status and issues of rural tourism in Nanning, we hope to clarify the social and economic roles of rural and urban tourism, forms of exchange, and spillover effects on the region, as well as to assist in research on the development of rural tourism currently being undertaken in many regions of China.